

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名

青森県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	十和田市立 三本木中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	5	5	4	20	37
生徒数	190	175	183	5	553	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力の定着を図る指導のあり方の研究」
～少人数指導の授業実践を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・1年生・数学
生徒の理解の状況に差があり、よりきめ細かな指導が必要であるため。
- ・1学年 英語
初めての教科であるため、きめ細かな指導のため。
- ・2学年 英語
生徒の理解の状況に差が出ているため。
- ・3学年 英語
比較・研究のため。

(2) 年次ごとの計画

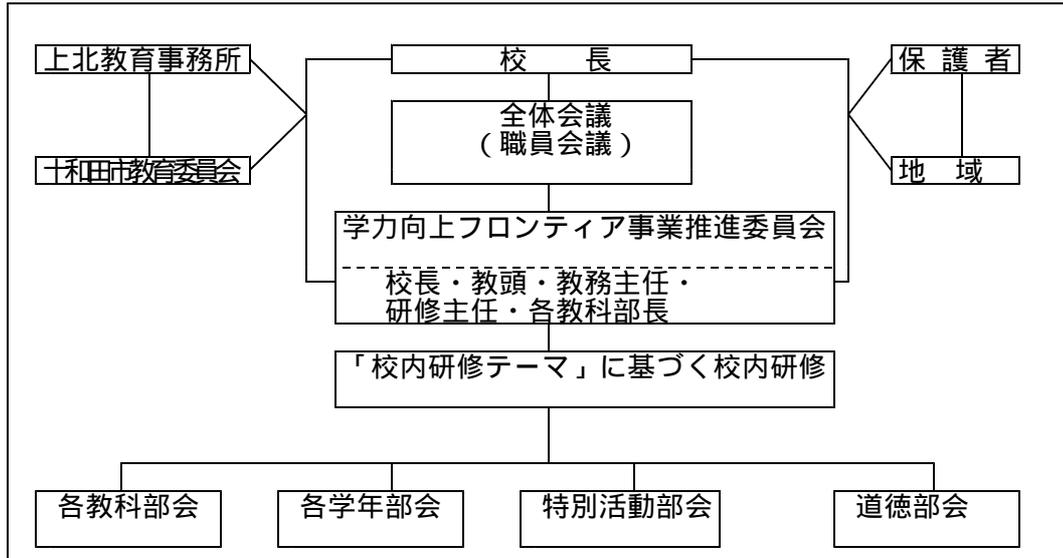
平成15年度	<p>テーマ 確かな学力の定着を図る指導のあり方の研究 ～少人数指導の授業実践を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説) 生徒の理解の状況に差が出やすい教科において、小集団に分けることにより、個々にかかる時間を確保し、生徒の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の工夫改善をすれば、基礎・基本の確実な定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 形態：数学科・英語科において、等質な小集団に分ける。 指導方法：基本的に、2つのグループを別教室で指導する。 週1回の教科部会で、進度・指導方法等について十分な意見交換をする。 テスト等：同一問題で、評価・追指導等は行う。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力の定着を図る指導のあり方の研究 ～少人数指導の授業実践を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説) 小集団に分けることにより、個々にかかる時間を確保し生徒の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の工夫改善を通して、評価の工夫をすることで生徒の意欲を喚起し、基礎・基本の確実な定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 形態：数学科・英語科を、等質な小集団に分ける。</p>
--------	---

指導方法：基本的に、2つのグループを別教室で指導する。生徒の意欲の喚起をするために、評価問題等の吟味をし、自ら学習の課題をつかみ、適切に指導・助言できる体制の工夫をする。

評価等：いわゆるB基準となる問題を、定期テスト等から検討し学習課題の明示と確認問題の工夫をすることで自己評価を促し、適切な援助でさらに基礎・基本の確実な定着が図られる。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

15年5月実施
意識調査の内容と結果
生徒編

- 1年生「少人数指導の良い点・改善してほしい点を書きなさい。」
結果：・小学校の一斉授業では、全然わからなかったが少人数指導ではわからないところがなくなった。
・黒板に書く回数が多いので勉強になる。
・前よりみんなが発表できるようになった。
・発表を間違えても、そんなに恥ずかしくない。
・集中して勉強ができる。
- 2年生「昨年までの一斉授業と比べて 少人数指導がよい 一斉授業がよい
どちらでもよい」
結果： 54% 19% 27%
- 3年生「昨年までの一斉授業と比べて 少人数指導がよい 一斉授業がよい
どちらでもよい」
結果： 64% 11% 25%

1学期を終えて

教師編

メリット

- ・細かいところまで生徒一人一人に指導及び声かけが行き届く。
- ・言語活動の際、みんなに発表させることができる
- ・一人の活動量が増える。

デメリット

- ・クラスの半分にしか教えることができない。
- ・移動教室になるため、必要なものが手元にないときがある。

検討事項

- ア、学級担任が自分のクラスの半分しか授業の様子がわからない。
 イ、複数の教科担任による指導のため、学力差がでることが予想される。
 ウ、運用の方法の確認

上記のデメリットの対応を夏季休業中に検討し、次の方向性を決めた。

ア、「クラスによる学力差がでるのでは」について。

(資料)

クラスによる学力差

3学年(英語)

1学期中間テスト

組	1組	2組	3組	4組	5組
A	65	64	61	59	68
B	64	61	57	58	65

1学期期末テスト

組	1組	2組	3組	4組	5組
A	69	68	63	62	69
B	62	62	63	65	66

クラス分けの方法

2年生の学年末に実施したCRTの結果をもとに、教育的配慮をした編制

学力差は認められない

2学年(英語)

1学期中間テスト

組	1組	2組	3組	4組	5組
A	67	63	63	64	66
B	65	67	53	59	71

1学期期末テスト

組	1組	2組	3組	4組	5組
A	60	60	57	57	57
B	61	65	52	55	61

クラス分けの方法

1年生の学年末に実施したCRTの結果をもとに、教育的配慮をした編制

学力差は認められない

1学年(数学)

1学期中間テスト

組	1組	2組	3組	4組	5組	6組
A	87	89	89	83	81	86
B	79	84	78	88	82	88

クラス分けの方法

入学後の算数テストを実施。結果により編制

ほぼ、学力差は認められない

1学期期末テスト

組	1組	2組	3組	4組	5組	6組
A	65	64	61	65	62	64
B	60	62	47	64	60	67

以上の結果より、クラスによる学級差は大きくないと考える。

イ、学級担任が、自分の学級の生徒の半分の生徒しか授業の様子がわからない。

ことに対しては、「運用の研究」として、単元等を考慮して、「週2時間は一斉授業、残りを少人数指導と指導形態の複合化で取り組む」とし、2学期実施する。

ウ、運用は、通年のクラスで「教師の入れ替えは行わない」ことを確認した。

2 学期の実践を終えて、生徒のアンケートを集計。

英語科

1. 一斉授業と少人数指導の組み合わせた授業について

	1 学年	2 学年	3 学年
よ い	5 7 %	5 6 . 1 %	7 7 . 6 %
あ まり良くない	4 3 %	4 3 . 9 %	2 2 . 4 %

2. あなたはどのような授業形態がよいと感じますか。

	1 学年	2 学年	3 学年
少人数	4 2 . 3 %	3 2 . 9 %	3 6 . 6 %
併 用	3 2 . 1 %	3 2 . 9 %	3 5 . 1 %
T・T	2 5 . 5 %	3 4 . 2 %	2 8 . 4 %

3. あなたは英語の授業に興味関心が持てましたか

	1 学年	2 学年	3 学年
は い	3 3 . 9 %	3 4 . 2 %	2 1 . 6 %
い い え	8 . 5 %	1 9 . 4 %	1 1 . 9 %
どちらとさえない	5 7 . 6 %	4 6 . 5 %	6 6 . 4 %

4. あなたは英語の力がついたと思いますか

	1 学年	2 学年	3 学年
は い	3 1 . 5 %	2 9 . 8 %	3 3 . 6 %
い い え	1 6 . 4 %	2 8 . 5 %	1 5 . 7 %
どちらとさえない	5 2 . 1 %	4 1 . 7 %	5 0 . 7 %

5. 一つのクラスに2人の教師がいた場合、どのように教えて欲しいか。
ひとりの教師が黒板で説明し、もうひとりの教師がアドバイス等を行う授業が多かった。

考察：少人数は静かに授業を受けられるが、多様な意見を聞けない。
気持としては、クラス生徒と一緒に授業を受けたい。
そこで、これまで通りの授業スタイルで、もうひとりの教師がうるさい生徒の指導、わからない部分への対応等を希望している。

数学科

1. 少人数指導と一斉授業を比べて、良い点・改善をして欲しい点を書きなさい。

少人数指導の良い点

1 学年

- ・間違っているときにちゃんと教えてくれた
- ・ふざけないでできる
- ・静かでやりやすい。
- ・1人1人指導してくれるからわかりやすい
- ・質問しやすい
- ・忘れ物なし
- ・ノートをとりやすい
- ・発表しやすい
- ・プリントが少な目だった
- ・詳しい説明だった
- ・1つ1つを詳しく教えてくれるので、苦手なところがわかるようになった

2 学年

- ・私語が少ない
- ・わからないところを質問できる
- ・発表がたくさんできる
- ・静かで進むのが早い
- ・わかりやすい
- ・これになるまえうるさい人が静かになった
- ・一人一人のことをよく見てくれる
- ・真剣に授業を受けている少人数になることで授業に集中できる

一斉授業の良い点（少人数指導と比較して）

1 学年

- ・静かに授業ができるからよい。
- ・意見が出やすい
- ・質問が多くていい。
- ・先生による教え方の違いがない

2 学年

- ・みんなの考え方を聞ける
- ・移動しなくても良い
- ・緊張感があり静かに授業を受けることができる

- ・教えるスピードや教え方が一
緒でわかりやすい
- ・教室移動がない
- ・授業でいろんな考えがある点
- ・教えあいができる
- ・楽しく授業ができるようになった

少人数の改善を要する点

1 学年

- ・みんながふざけて、授業に
ならない
- ・座るところを自分で決めたい
- ・授業がわかりにくい
- ・ゆっくり進めているので早く
してほしい
- ・私語
- ・同じクラスでも進度に差があ
り、話が合わない
- ・先生を選べるようにしてほし
い
- ・テスト勉強のときは、ワーク
を徹底的にやってほしい

2 学年

- ・人数が少ないのだから、も
う少し一人一人に当ててほ
しい
- ・先生により、わかりやすさ
に差が出る
- ・もう少し詳しく説明してほ
しい
- ・復習をまめにやって
- ・先生になじみにくい

一斉授業で改善を要する点

1 学年

- ・人数が多いとわかりにくいと
ころを質問しにくい
- ・授業のペースが少人数よりも
すごく速い
- ・うるさい
- ・少人数に戻してほしい
- ・わからなくてもどんどん進ん
でいくときがある

2 学年

- ・うるさくなる。
- ・わからないところをそのま
まにしてしまう

2. あなたは数学の授業に興味関心が持てましたか

	1 学年	2 学年
は い	3 6 %	3 9 . 5 %
い い え	1 1 %	1 1 . 7 %
どちらともいえない	5 3 %	4 8 . 8 %

3. あなたは数学の力がついたと思いますか

	1 学年	2 学年
は い	3 1 . 5 %	4 1 . 4 %
い い え	1 6 . 4 %	1 7 . 9 %
どちらともいえない	5 2 . 1 %	4 0 . 7 %

教師の反省

英語科

メリット

- ・教師のお互いの授業向上になった。
- ・もう一つのクラスの実態がわかり、クラスの雰囲気を合わせられる。
- ・自己流にならない。リズムが合わせられる。
- ・板書が統一される。
- ・生徒の不安がない。
- ・生徒同士の刺激になる。

デメリット

- ・みられるのがいやだ。
- ・普段教えていない生徒へ教えずらい。
- ・進度がずれるときがある。
- ・先生が違くと、なにをしているのかわからない。

今後の方向

- ・少人数をメインに、合同もよい。
- ・3年生は少人数指導がよい
- ・併用の場合は、文法を合同でクラスによって緩急を付けて行うのがよい。

数学科

メリット

- ・個別の指導が、時間内に多くできる。
- ・演習の幅を広げることができる。
- ・集中力も持続する。

デメリット

- ・個別の指導の時間が少ない。(チェックの回数が減る)
- ・前半の少人数指導で、学級半分では学級担任として「不足の場面」を感じる。
- ・意識の中で少人数のクラスの中で、ある程度できると感じて、40人の中では、そうではないという実感をもつ生徒がいる。

2. 今後の課題

少人数での指導は、概ね学習活動(言語活動・机間指導・個別の対応等)に大いに有効である。が、定着の悪い生徒へのケアの時間・方法を見いだしたり、実行する環境を工夫しなければ、きめ細かな指導にならず、確かな学力の定着にならない。

等質な小集団にわけ、年間を通した研究であったが、40人学級との違いを明らかにし、こだわりのある授業づくりを明確にする必要がある。

学力の定着をはかるために、評価問題(いわゆるB基準問題)の研究が一層必要である。

学級と教科指導の時間と全校体制の取り組みのあり方を検討し、小さなステップのスパイラル的な指導と効果を図る計画が必要である。

学力把握のための学校としての取組

- ・学期に1回、生徒・教師の意識調査を実施
内 容 生徒・・・少人数指導についての意識調査
教師・・・実施上の成果と課題
- ・長期休業中に学力向上フロンティア事業推進委員会を開催
内 容 アンケート実施による問題点の改善について
今後の取り組みについての方向性の確認
- ・学年末に実施するCRTの結果で、定着の度合いを見る。

フロンティアスクールとしての研究の成果の普及

- ・学力向上フロンティアハイスクール校との連携・意見交換。
平成15年11月19日 拡大校内研究会に、フロンティアハイスクールから参加してもらい、ア、授業について イ、教科指導の連携について協議を行った。
また、学区の小学校にも案内し、授業公開をした。
- ・平成15年12月17日 全校参観日を学区内の小学校への案内をし、公開した。
- ・平成16年6月上旬 拡大校内研究会を実施。
- ・平成16年10月1日 十和田市学習指導研究協議会の場で、公开发表を行う。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無